

○ 委員長報告

12月定例会本会議で報告された総務企画国体委員長報告は、以下のとおりです。

平成27年12月定例会

総務企画国体委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、私立学校の耐震化についてであります。

このことについて一部の委員から、県立学校は平成29年度までに耐震化が完了すると聞くが、同じ学校施設である本県の私立学校の耐震化の進捗状況はどうか。

また、今年度から創設された、耐震診断の補助制度の取り組み状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、平成26年4月1日現在の本県私立学校の耐震化率は、高等学校では64.9%、中学校・中等教育学校では100%、幼稚園では71.9%で、全体では69.9%となっており、全国平均80.6%と比べて、約10%程度下回っている。

また、私立学校耐震化促進事業の実施要望を募ったところ、高等学校2校6棟、幼稚園3園3棟の校舎・園舎や屋内運動場の耐震診断に活用したいとの要望があり、現在、各学校において耐震診断を実施しているところである。

県においては、当初予算で1,500万円を計上しており、この制度を活用して、まず耐震診断を実施することにより、私立学校が生徒等の安全・安心を確保するための耐震補強等に取り組む契機になればと考えている旨の答弁がありました。

第2点は、みきゃんの今後の活用等についてであります。

このことについて一部の委員から、ゆるキャラグランプリで準グランプリを獲得し、今後、地域経済の活性化や県の情報発信につながることを大いに期待されるが、みきゃんを、県政や愛媛みかんのPRにどのように活用していくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回のグランプリ挑戦で、みきゃんは全国の皆さん

に愛されるキャラクターに成長し、特に県内の学生が手弁当でみきゃんの力強い応援団となり、みきゃんを通じて若い力がつながったことは、再来年のえひめ国体・えひめ大会の開催など、今後の県政において、大いに力を発揮してくれると考えている。今後、愛媛みかんとのコラボや本県出身著名人とのタイアップも進め、愛媛といえはみかんとみきゃんと言われるよう、取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第3点は、えひめ国体の輸送交通対策についてであります。

このことについて一部の委員から、えひめ国体総合開会式時において、松山インターチェンジからのアクセスなど国道33号を中心とした幹線道路の渋滞対策についてどのような対策を講じていくのか、また、参加者の輸送には大量の貸切バスが必要であるが、円滑なバス確保に向けた取り組み状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、3万人の来場を想定しているえひめ国体総合開会式の交通対策については、交通総量の抑制が最も重要であると認識しており、隣接するとべ動物園やえひめこどもの城等の公共施設の利用制限をはじめ、一般観覧者のマイカー来場禁止、駅からの無料シャトルバスや近郊の駐車拠点からのパーク&ライド、看板や横断幕によるマイカー利用自粛の呼びかけ、県道23号沿線を中心とした周辺企業の業務車両の運行調整、新聞やテレビ等による交通広報など様々な取組みにより交通総量の抑制を図ることとしている。

また、総合開会式が行われる9月30日には多数の参加者輸送のため、県、市町合わせて800台のバスが必要と見込まれるが、県内の貸切バスの保有台数は約430台と大幅に不足していることから、県内はもちろん、四国各県や広島、岡山など県外からも大量の調達が必要であるため、県内小・中・高校でのバス使用を伴う学校行事の自粛依頼やバス事業者説明会の開催、県外バス協会への協力要請など、県内外からのバスの円滑な確保に向けて取り組みを進めている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・マイナンバー制度
- ・ストレスチェック制度導入に向けた取り組み
- ・ラグビーワールドカップ日本大会におけるキャンプ地誘致
- ・市町における地方創生に向けた取り組み状況
- ・全国障害者スポーツ大会の準備状況

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願2件については、いずれも願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。